

# 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【基調講演】

日時：令和5年2月26日（日）13:10～14:10

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：167名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさと未来  
～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」

講演「子供の今と未来の幸せのために～コミュニティ・スクールでできること～」

文部科学省国立教育政策研究所初等中等教育研究部長

教育データサイエンスセンター副センター長 藤原 文雄 氏

## ポイント1 なぜ、コミュニティ・スクールが必要なのか

児童生徒が、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手」となるためには、より多くの大人と協力した方が、よりが充実した教育が実現する。それが、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進である。

担い手ではなく、創り手

## ポイント2 コミュニティ・スクールのどこがいいのか

児童生徒のよりよい意思決定ができる	例) 児童生徒の安全確保のための情報が得られる
児童生徒のためにリソースが得られる	例) 総合的な学習の時間における地域課題の提供、共同解決
社会的に不利な児童生徒のためにリソースが得られる	例) 地域での声掛けにつながる
児童生徒の教育等に係る大人の役割分担の見直しができる	例) 学校運営協議会の後押しによる行事の見直し
児童生徒の幸せのために絆が深まる	例) 防災訓練に参加して、地域の人との会話が広がる

## ポイント3 校長はどのような役割を果たせばよいのか

より多くの大人の力を引き出すためには、校長のリーダーシップが必要  
令和の日本型学校教育では、従来からのマネジメント能力に加えアセスメント能力（学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有）や、ファシリテーション能力（会議等を円滑に進めるスキル）が求められる。  
校長は教師の延長ではない！もはや、違う仕事としてとらえるべきである！

学校は社会の分断を防ぐ「最後の砦」であることを自覚し、  
社会の創り手を育むため、責任をもって参画することが大切である。

**すべては、子供の今と未来の幸せのために**



## 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【つなげるの部】

日時：令和5年2月26日（日）10:00～11:30

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：35名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさと未来  
～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」



講演とワークショップ「熟議をカタチに ～何かと何かをつなげる役割～」

文部科学省CSマイスター

大阪府美加の台中学校ゆめ☆まなびネット代表 大谷 裕美子 氏

### ★ ファシリテーターとは



- ☆必要な4つのスキル  
傾聴能力 語彙力 質問する力 整理する力
- ☆上手くいく3つのコツ  
空間の工夫 話しやすい場の提供 時間管理

まずは傾聴能力について体験してみましょう！！

### ★ コーディネートスキルとは

- ☆コーディネートスキルとは？  
クッション役・フィルター役・聴く力・守秘義務…
- ☆協力してくれるボランティアの見つけ方！  
1人で悩まず学校運営協議会委員さんも頼って…
- ☆新年度のスタートですることは？  
先生の動きを把握しましょう。日課表、分掌表…

今日はコーディネーターになってみましょう！！



### ★ コーディネートスキルをシミュレーションしてみよう



お題「夏休みの子どもの居場所」を企画してください。



- ★素敵なアイデアがたくさん出ました。
- ★大きなことから始めなくてもいい。
- ★まずは見られる範囲の人数から。
- ★高校生、大学生にも目を向けて。
- ★商工会や地元企業も巻き込んで。

コーディネーターって実は、楽しいですよ！！

# 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【義務教育の部】

日時：令和5年2月26日（日）14:25～16:00

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：59名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさと未来  
～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」

講演「家庭・学校・地域の最上位の目的から連携・協働を考える」

大分大学教職大学院 教授 清國 祐二 氏

## ポイント1 学校は何のためにあるのか？

- ・最上位の目的（目標）は「子供のため」？「社会のため」？（なかなか結び付かないが、子供たちの未来には社会がある）
- ・幼、小、中…それぞれ「責任の先送り」になっていないか？地域も含め、共通の目標があれば、やらなければならないことが見えてくる。
- ・学校運営協議会・地域学校協働活動がその役割を果たす。
- ・地域の声かけは、まさに教育力である。  
「あなたのことを知っていますよ、大事に思っていますよ。」
- ・子供と地域の方との共通体験が教育力を高める。



## ポイント2 ペアトーク「みなさんの願い」を問い直してみよう！

### 【ペアトーク①】

○地域の子供「どんな大人」になってほしいですか？

- ・「思いやりのある大人」、「対話ができる大人」、「地域のことが大好きな大人」、「自立した大人」などの意見が出された。

地域の視点で…



担任なら…

### 【ペアトーク②】

○「未来をひらく子供」とは？ 具体的な場面で考えよう！

- ・子供が納得すれば、いい方向に進み、納得しなければ、子供は伸びない。
- ・地域は、学校とは違う関わり方ができる。  
(地域だと学校でかけられない言葉をかけられる。)

校長の立場で…

## ポイント3 コミュニティ・スクールは日本の教育改革の旗印！

- ・予測困難な時代に向き合うためには、「柔軟」で「しなやか」で「強靱」な力が必要  
これからの子供は、地域の活動を肌感じて、社会のためを考えて、課題を乗り越えなければならない。
  - ・人口が1億人から8千万人まで減少したとき、ダウンサイズの国づくりが必要  
「社会に開かれた教育課程」や「地域とともにある学校」とは、「日本の未来がどうあってほしいか」ということ。
  - ・「よりよい社会を創る」学校教育とは？  
学校間で課題の先送りをしていないだろうか。  
地域は学校に任せっきりになっていないだろうか。
- ◎学校、家庭、地域をあげて「考える」ことが求められる時代



# 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【高等学校の部】

日時：令和5年2月26日（日）14:25～16:00

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：62名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさとの未来

～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」

## 講演「学校運営協議会を活かした高等学校の特色づくり」

文部科学省CSマイスター・岡山県青少年教育センター閉谷学校所長 香山 真一 氏



### 1 コミュニティ・スクールで何を変えるか

- 持続可能な**社会の創り手**をつくる。
- 学校運営協議会での協議を通して、「みんなでより良くしていこう。」という意味をより強く反映していく。
- 合同協議会の設置にはメリットがある。

### 2 コミュニティ・スクールをどう作るか

#### ○テーマ・コミュニティの可能性

- ・スクール・ポリシーに照らし、学校運営協議会の委員を選定する。
- ・地元の人だけでなく、オンラインを活用して遠方の人ともつながる。  
→生徒の刺激になる！

#### ○コーディネーターの配置（和気閉谷高校）

- ・和気町、県教委から合計4名のコーディネーターを配置  
→地域との様々な連携業務を担当  
→地元の魅力的な大人と出会うきっかけづくり

#### ○高校生の参画（スクール・ポリシーの策定）

- ・生徒が自らの学校生活を振り返るとともに、学校生活を通じて身に付けたい資質・能力について、主体的に考える機会を設ける。  
（例）クラスごとの話し合い → 代表が学校運営協議会に参加



### 3 振り返り、改善をどうするか

#### 【振り返り】①高校魅力化評価システムの活用

- ②カリキュラム・コンテンツ・マッピングによる評価
- ③ポートフォリオ評価

#### 【改善の観点】①主権者教育 ②DEI,SDGs ③キャリア教育④まちづくり ⑤働き方改革



# 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【特別支援学校の部】

日時：令和5年2月26日（日）14:25～16:00

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：13名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさとの未来  
～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」

## 講演「特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの効果的活用」

岩手大学教育学部特別支援教育科教授・教育学部附属幼稚園長 柴垣 登 氏

### 1 特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの状況

- 全国の公立学校におけるCSの数（2021年） →11,856校
- 全国の特別支援学校におけるCSの数（2021年） → 286校
  - ・2018年の「努力義務」以降に増加
  - ・一括して指定する道府県の増加
  - 和歌山県の他に、神奈川県、大阪府、広島県、山口県、熊本県も100%

### 2 特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの効果的活用のために

- 特別支援学校に求められていること  
「学校運営協議会を通じて地域や関係機関等との連携・協働を充実させていくことによって、共生社会の実現に資する」（2015年 答申）
- 校長のリーダーシップ
  - ・自校の課題の明確化
  - ・解決のためにCSをどう活用するか方針の明確化
  - ・課題を共有する関係者による「テーマ・コミュニティ」の設定→CSの具体的な姿を想定
- 導入校の事例  
京都市立東総合支援学校  
京都市立白河総合支援学校  
京都市立鳴滝総合支援学校

いずれも課題に応じた人選・活動・評価を実践



### 3 まとめ



- 「連絡」「連携」「統合」  
連携には3つの発展段階がある。
- 協議・熟議を重ねることで段階が上がる。  
自校はどの段階にあるかを認識すること。
- 全ては子供達の未来のために。

# 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【全小学校と家庭をつなぐ部】

日 時：令和5年2月26日（日）14:25～16:00

場 所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：31名

テーマ：「当事者意識が築く、持続可能なふるさとの未来  
～大人の本気が、子供を真剣にさせる～」

## 講演「教職員と保護者が相談できる存在であり続ける

～橋本市家庭教育支援チーム『ヘスティア』14年の歩み～

橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」代表 森田 知世子 氏  
橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」支援員 松本 祐代 氏

### 1 「ヘスティア」のチームワーク



☆講座部「人と人とのつながりを増やす」

- ・語り合い班・・・就学時健診時の保護者ワーク等
- ・家庭読書班・・・読書推進講座、絵の本のひろば等
- ・アラカルト班・・・卒業制作の講座、手作り講座等
- ・食育班・・・かんたんレシピの作成等

☆広報部「子育て情報を広く発信」

家庭教育情報誌「げんきっこFamily」、チラシ・ポスター、SNS等で発信

☆家庭訪問部「必要なところに、必要な支援を届ける」  
家庭訪問・個別相談等

### 2 「ヘスティア」が教えるペアワーク・グループワークを体験

- ①支援員：クイズの出題
- ②参加者：個人の思考錯誤
- ③全 員：クイズの回答の共有
- ④参加者：ペアの対話による回答の理由さがし  
グループの対話による理由の共有
- ⑤全 員：回答の理由の共有

理由が見つからない時に参加者はペアからグループワークに移すため、自然と対話が広がっていきます。



### ★ 「ヘスティア」のこれから



コロナ禍をのりこえてつながり続けるために

☆「ようこそ橋本 ヘスティア子育て情報便」

☆「ヘスティアお届け便」

保護者からの声

「就学時ワークがあって安心した。」

「一人目の子の小学校入学なので不安だったが、  
分からないことが聞いて良かった。」

「ずっと誰にも相談できずにいたことを聞いてもらえてよ  
かった。」等

保護者を集める講座形式のつながりづくりが難しいなら、アウトリーチ型支援に取り組みよう！



子育てに関わる全ての人と ともに  
笑顔の子育てができるまちづくりを目指します